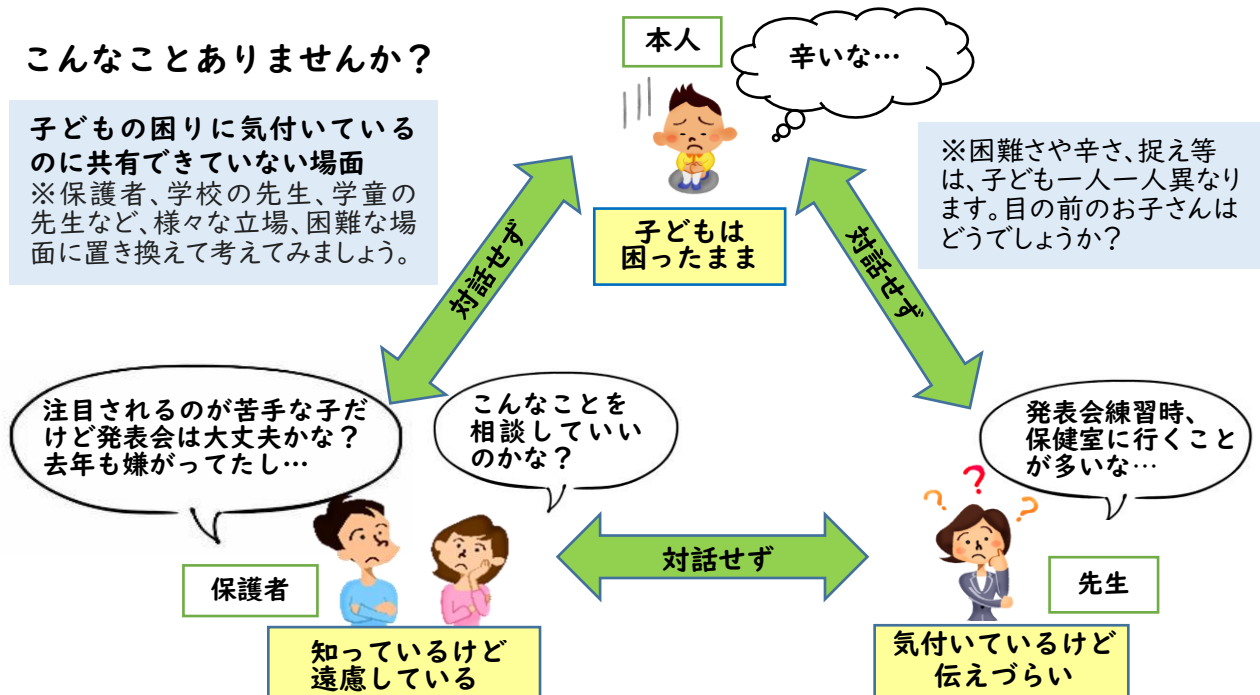


## 「まずは話してみよう」

目の前のお子さんについて「心配なこと・気になること」が出てきたときに、先生方や保護者、関係者間で、子どもの情報を共有していますか。

こんなことはありませんか？

子どもの困りに気付いているのに共有できていない場面  
 ※保護者、学校の先生、学童の先生など、様々な立場、困難な場面に置き換えて考えてみましょう。



※困難さや辛さ、捉え等は、子ども一人一人異なります。目の前のお子さんはどうでしょうか？

気になることを相談することは、とても勇気が必要ですね。なかなか、相談できない方もいると思います。

ただ上の例のように、子どもが困っていると周囲が気付いているのに、話をせず、そのままにしてしまうのは、子どものよりよい生活につながるチャンスであるのに、もったいないです。思っているだけでは伝わりません。ぜひ**声に出し**、何ができるかを一緒になって考えてみませんか？一人では難しくても、**共に話し合い、考える**ことで見えてくることもあるかもしれません。

また、話し合う際に、状況説明や「困ってるんです...」「そうなんです...」と話すだけで終わらないようにしたいですね。「本人はなぜ困っていて、どんな支援が必要か、どうしたらできるようになるか」といった対応まで話し合いができるよう目的を意識して話していくことが大切です。

さらに、対応につなげていくためにも**「本人との対話」**が重要です。本人との対話、関係者間での対話を通し、共に子どもを支える応援団になれるといいなと思っています。

様々な場で必要な情報や支援が繋がっていくと環境が整い、子どもたちも安心し、心豊かに生活することができます。

**「子どものために」  
 まずは対話を！**

日常の**対話のポイント**については、**前号の相談だより**をぜひご覧ください。(2次元コード⇒)



12月5日(木)に当センターの発表会にて「教育相談実践報告」を行います。  
 興味のある方は当センターホームページから是非お申込みください。(11月8日締め切り)